

2021. 3. 14~3. 15

甲斐駒ヶ岳 黒戸尾根山行報告書

記 柴田吉暁



計画書整理 No.

期 間：2021年 3月 14日（日）～ 3月 15日（月）

種 別：個人

山 域：南アルプス（甲斐駒ヶ岳）

参 加 者：河本、柴田

コースタイム：3月14日 8:58 尾白川駐車場→ 11:01 笹の平分岐→ 12:59 刀渡り
→ 13:31 刀利天狗→ 14:56 屏風小屋跡→ 16:09 七丈小屋
3月15日 5:13 七丈小屋→ 6:13 八合目御来迎場→ 7:43 甲斐駒岳
→ 9:08 八合目御来迎場→ 10:21 七丈小屋→ 11:30 小屋跡
→ 12:29 刀利天狗→ 12:42 刀渡り→ 13:54 笹の平→ 15:30
尾白川駐車場

記録

1日目、黒戸尾根を登って七丈小屋で幕を張り、2日目甲斐駒ヶ岳へアタックし下山する一泊二日の山行とした。天候に恵まれ、全ての行程を予定通り行うことが出来た。

以下、詳細

14日の朝、河本さんにピックアップしていただき、尾白川渓谷駐車場へ向かった。道路も混雑しておらず、スムーズに向かうことが出来た。駐車場は周辺をハイキングされる方もいるようで、そこそこの車が停まっていた。

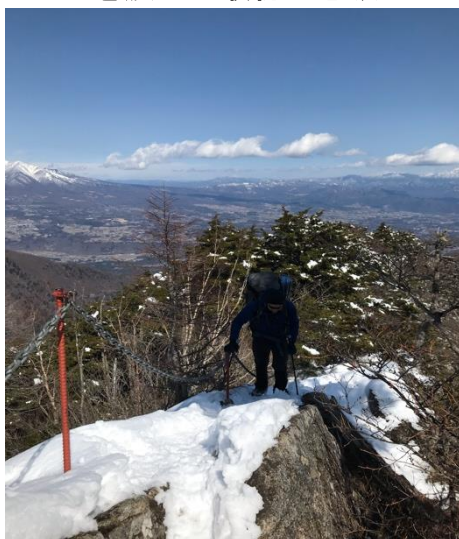
支度をして出発、歩きはじめは川沿い進んでに神社の脇を通り、橋を渡って急坂を登る。歩きはじめは雪は無かったが、笹の平辺りで徐々に雪や凍結面が出てきたためアイゼンを装着した。笹の平から2時間ほど展望のない樹林帯をひたすら登り、刀利天狗の前辺りから展望の良い切れた箇所が出始めてきた。そして、刀利天狗の手前は梯子や鎖のある急斜面で、慎重に登った。そこから少しアップダウンのある緩やかな道を1時間ほど歩き、七丈小屋から1時間ほど前の展望の良いところで休憩。ここから小屋までの1時間は梯子や鎖も多い急斜面で、高度感もあり危険な箇所が多かった。16時ごろ七丈小屋に到着。受付を済ませて、小屋から5分ほど登った場所に幕を張り就寝。テント場は直前の雪で分かりづらくなっており、スコップが無いと場所を整えるのが大変だと感じた。



河を渡って最初の急坂



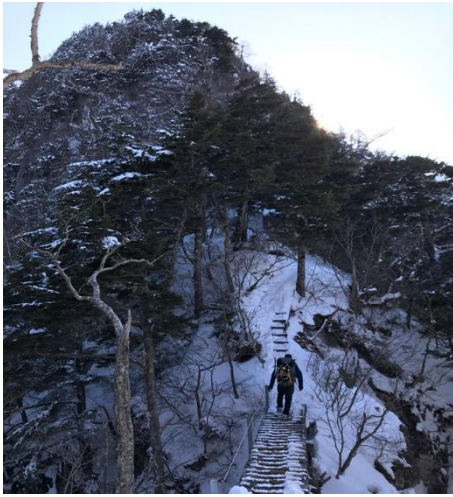
樹林帯



途中視界が開ける

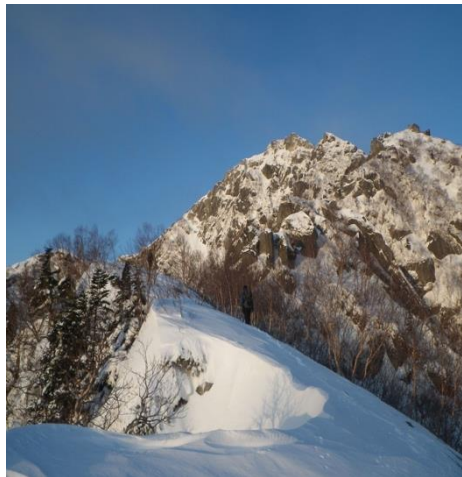


刀利天狗手前の急斜面

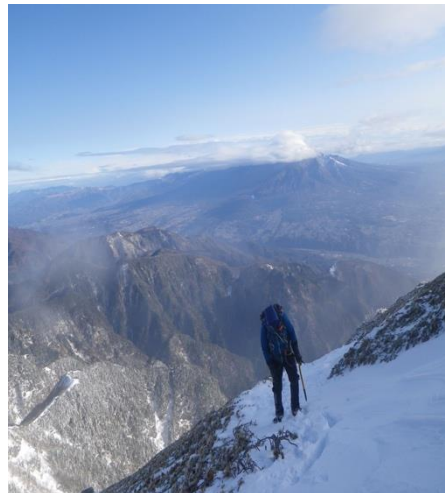


七丈小屋手前の階段

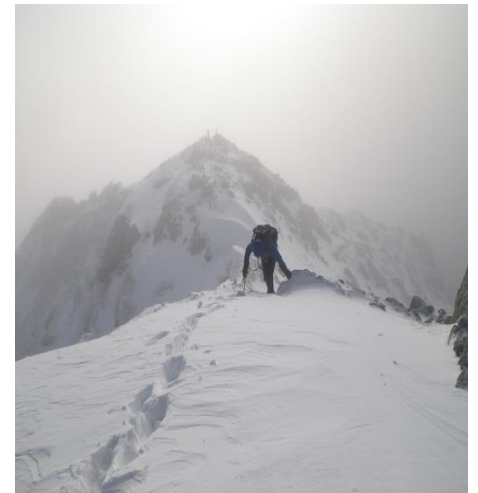
15日早朝3:30に起床し、朝食を取った後、身支度を整えアイゼンを装着して5:00ごろテント場を出発。テント場から稜線に出るまでの道はトレースがなく、雪量の多いラッセルを強いられた。距離は短く1時間かからず抜けることができたが、傾斜がきつく、中々にこたえた。また、ワカンを持参したが、短い距離に加え、傾斜がきつく結局使用しなかった。稜線に出てからは雪がしまっており、とても歩きやすかった。心配していた風もそこまで強くなく、快適に歩くことができた。途中、道が細くなっていたり、傾斜がきつく、滑落の危険がある箇所も所々にあり、警告の看板も多く立っていた。今回はロープを出さずに登ったが、人によっては危険箇所はロープを出した方が安心かもしれない。7:30ごろ頂上手前の祠に到着し、そこから10分ほど歩いて、頂上に到着。その頃にはガスが出てしまっていて見晴らしは良くなかった。



森林限界を超える



雪と岩の混じった道



頂上手前 ガス

記念撮影を済ませ、早々に下山開始。行き道よりも下りは特に危険箇所は慎重に降りた。鎖が埋まっている所は少なかったが、はしごが見え隠れしている箇所もあり、歩きづらかった。10時前には七丈小屋に降りてきて、撤収。登りはあれほど長く感じた道も帰りはとてもスムーズに進むことができた。雪が溶けた泥道が出てきた笹の平の辺りでアイゼンを外した。15:30には駐車場に到着し、帰路についた。

感想

今回は元々谷川岳での山行を計画しておりましたが、天候や雪の状態を考慮して南アルプスの甲斐駒ヶ岳に行って参りました。前日に雪が降り、道の状態が心配でしたが、小屋まではしっかりとトレースがあり、そこからも短いラッセルで済んで天候にも恵まれ結果的に快適な登山ができました。前回の山行に続けて河本さんとご一緒させていただき、色々なご指導をいただきました。また山に登りたいと思える楽しい山行でした。ありがとうございました。